

琴陵中ブロックの進める小中一貫教育

Stage2

“**適時性**”と“**連続性**”を大切に、児童生徒にとって、“**必然性**”のある学びをつくる

確かな学力、豊かな心、健やかな体を備えた子どもの育成
～子どもの発達と学習の連続性を大切にした教育の実践～

“必然性のある学び”に立脚したブランドカリキュラムを踏まえた実践研究

琴陵中学校ブロック小中一貫教育ブランドカリキュラム

学習指導部

道徳・人権部

生活指導部

目指す子供の姿

夢や願いを大切に、主体的、協同的に学び合う子

自然や故郷を大切に、自分らしく 共に生きようとする子

心身ともに健康で、たくましく生きる子

子供の姿の具体イメージ

意見を伝えたり、聞いたりしながら楽しく学習する
自分や友達の考えや願い、故郷のよさを知り大切にする
自分の願いや心と身体の健康を大切にする

違った意見や考えにも触れ、考えを広げたり深めたりしながら主体的に学び合う
自分や友達、故郷のよさを大切にしながら、自分らしく生きようとする。
自他の心身の状況にも目を向け、困難にもくじけず粘り強く取り組む

自然や故郷の未来を展望し、夢に向かって協同的に学習し、学びを深める
自他の夢や願いを大切に、生かし合い、高め合いながら共に生きようとする
自他の心身の健康を大切にしながら、将来を展望したくましく生きる

自学力・探究力

学びに“必然性”を見出し、見通しをもって、主体的に学び、考えを広げたり、深めたりしながら、物事の本質や価値に迫ろうとする力。

自己肯定感

自他のよさや魅力に目を向けながら自分自身が、かけがえのない存在であることに気づき、自分らしく生きようとする力

身に付く力

故郷を愛する心

故郷のよさや伝統、文化に目を向け、愛着をもつとともに、自らが次代の担い手として、未来を豊かに展望し、主体的、能動的に行動しようとする力

Point 課題形成 ～追究してみたいくなる課題づくりと提示～



“学び”は常にオープンエンド学習を終えて興味をもったことを次の探究課題にし、“必然性”のある“学習”が展開される



“学び”の主体は子供!!一人一人の感じたところから学習が始まり、友達との意見交流でさらに深まる“学び”



あれっ、おかしいな、どうして…新たな疑問に子供たちの知的な好奇心は高まり、さらに深い“学び”へ…

Point 児童生徒の思考の流れを大切に授業展開



つい話したくなる…そこが対話の入口…子供たちの自発的な対話で、広がり、深まっていく“学び”



自然な形で“認め合い”、“高め合う”場を設定することにより、支持的な雰囲気広がる…

年	目標	目的や条件に応じて、計画的に話し合う			
6年	目標科	本單元における『身に付く力』を指導の柱			
<p>二度の話し合い活動や検証活動を通して、話し合いをよりよいものにするために、主体的に学び、学びを広げたり、深めたりする。【自学力・探究力】 自分たちの力で解決したり実践したりできる課題を取り上げて話し合い活動を行うことで、自分や友達の意見を活動よりよいものにしていくことができることに気づく。【自己肯定感】</p>					
時	めあて	学習活動	子どもの姿	学び	子どもの気づき
1	みんな楽しくするために、計画的に話し合うという学習の意義を、話し合いの目的や条件を共有する。	みんな楽しくするために、計画的に話し合うという学習の意義を、話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	これまでの学習活動での1年間の振り返りを通して、話し合いの目的や条件を共有する。	1年生には話し合い活動もなかったかな。 ① 1年生も6年生も話し合い活動を楽しみたい。
2	話し合いの役割を、話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。
3	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。
4	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。
5	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。
6	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。	話し合いの目的や条件を共有する。

子供たちの気づきや疑問が次の課題に…子供たちの思考の流れを大切に、“学びのプロセス”を描き、学びの主体である子供たちにとって“必然性のある学び”が展開される

